

○議長 小田 武人君

次に、7 番、田島議員の一般質問を許します。田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

7 番、田島憲道です。任期最後の議会の一般質問です。朝からたくさん要望が出ておりますが、私もいくつか要望させていただきまして、有終の美を飾りたいと思います。

皆さん、配付資料の 2 を見ていただけますか。エチオピアの少数民族の女性ですよね。スマホを使っています。誰と話しているんでしょうね。日本では携帯、スマホがね、満遍なく普及するのに 30 年かかりました。しかし、このエチオピアでは一瞬、ちょっと言葉が大げさなんですけど。まあ、あっという間に広がったそうですよ。家が何戸も建つね、年収のもう何十倍もするような携帯電話なんですけど、やっぱり何十キロも先に銀行があるとなると、そういったところでスマホは一瞬で普及したということなんですけど。まあ、この 4 月にファイブジーです、5G が各社携帯電話、通信会社に割り当てられて、日本では来年と言われています。しかし、アメリカ、韓国とかもう、ことしから 5G が始まる。そうすると、劇的にシンギュラリティが起これと言われているんです。そういうですね、産業の革命の潮目をですね、私たちは体験できるという、節目にいると思います。

では、一般質問をさせていただきます。

件名、芦屋港活性化基本計画の今後の検討課題についてです。3 月 1 日の広報で港湾計画の概要が掲載されておりました。それに町民の中には大いに期待する者、また妹川さんのように心配している者もいます。私はですね、芦屋町には劇的に、急激にですね、人口がふえるとは思わない。そういう要素がないと思う中ですね、このようにして交流人口をふやす、ふやせる施策をやるということをお大いに歓迎している者であります。

今ですね、芦屋港活性化基本計画の素案が提出されました。現在、町民に対し、パブリックコメントを実施しています。議会にも先般の特別委員会にて、概要の説明がなされましたが、十分とは言えません。基本計画にある今後の検討課題について以下にお尋ねします。①ですね、要旨 1、港湾計画の改定の時期についてお尋ねします。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化基本計画の素案では、現在の港湾用途を定めた港湾計画を改定する必要があるということとまとめております。この平成 31 年度中に福岡県において改定の手続が行われるという予定となっております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

今年度中にと——次年度か。次年度中にとということになんですが。では、港湾計画を改定するに当たって、どんな課題があるのでしょうか。お尋ねします。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

港湾計画とは、港湾法に基づき定められたいわゆる法定計画というものでございます。この計画については、港湾管理者である福岡県が策定をするものでございますが、この福岡県によりますと、港湾計画の改定におきましては、港湾の用途には都市計画法、こちらに基づきます区域区分の定めがございまして、芦屋港活性化の基本計画、これを実現するためには、この区域区分をどのように位置づけをしていくか。法律に基づいてどのように位置づけをしていくか。また維持管理、整備する財源、こういったものも考慮しながら国土交通省と十分な協議が必要であるため、簡単にできないということで、こういったことが課題で現在検討をされているという状況でございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

国との協議もあり、なかなか大変、簡単にはいかないということではありますが。町長、ちょっと心配しておるんですが。知事選挙を控えておりますが。あの知事選挙、知事選挙ですね、福岡県知事選挙ですね。まあ新しくですね、知事が変わっても、まあそのまま現職の方が知事のままでこの改定、計画については何も変更とか、そういったことは——いやいや、町長が公の場で今の現職の知事じゃないよというようなことを発言されているからですね。まあそういったことで、ちょっと所見をいただきたいと思います。

○議長 小田 武人君

町長。

○町長 波多野茂丸君

わかりました。言われたいこと、何かちょっとこの辺でぼそぼそとしゃべられるから、ちょっとよくわからなかったんですけど。今回の知事選挙、大変な騒動になっておるわけですが。議員が御心配いただいておりますのは、現職それから対抗馬で結局、これちょっと離れたとこ

平成 31 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

ろから話すと、これ福岡県の町村会の関係で私が副会長をしている。それで、このさわりをちょっとまたお話ししますと、これ、現職の小川知事を推薦しようということで話が出たのは、10月の忘れもしない2日なんです。そのころは、知事選の話なんて出ていなかった。対抗馬の話とか。まあ変なこと言うなと思いつつも、まああの副会長会議などで、別にいいだろうと。推薦しようと思うと会長が言われた。だからその次の理事会までに、各、私は郡の代表ですから、帰られて、各郡の首長さんたちに聞いてみてくれと。これも口頭であったわけです。そして10月30日の理事会で会長がその旨話されたわけですね。小川知事を町村会として推薦しよう。みんな何かそのときはもっとふわっとした話で、知事選なんか。それでも異議がないようでもありますから、推薦することにします。そこで終わってたんですね。御存じのように、もうそれから、10月、11月、12月に知事選が激しくなってきた。例の、ここ8区支部の麻生先生が出てくる。それから麻生渡さんが出てくる。これは時事評論みたいになるんですが、いわゆる自民党同士の内部分裂で固有名詞したらあれなんでしょうけど。武田派、麻生派みたいなことで分かれてやりあっているということで。当然我々8区支部における町村が7、村はない。7町あるわけですが、その2月の初めのときに、私が「状況が随分変わっているんですが、きょうは理事会で県知事選挙の話は出るんですか」と。「いや、別はないよ」ということ。「じゃあこの場で言わせていただく。我々遠賀郡4町の町長会は小川知事は推薦することはできませんし、そんなできません」ということを申し上げた。そうしたら、結局、会長が「いやいや、それは困る」と。「いやいや、困ると言われても我々は麻生、この支部は麻生先生に全て今まで国のことはお願いしたりしている」ということですね、言っていますので、我々はしませんと。そうしたら、結局「じゃあ黙っててくれと。公開せんでくれと。黙っててくれ」と。西日本新聞の記者さんがあそこおるからね。待ち構えとるごとある。またあした新聞載るかもわからん。だからそんなこんな、いろいろあって、我々が結局できない、そういうことは。別に小川さんはね、悪い人じゃないんですよ。本当にとってもいい人ですよ。温厚な。ただやはり、いろいろな福岡市とのあれができていないとかですね。協議ができていない。北九州市との協議が全然できていないとか、まあいろいろな政治的なことなんでしょう。それともう一つ、県議会が圧倒的にその支持していないという。いろいろな要素があるんですが、我々にしてみたら、いや、小川さん別に何も悪いことしたわけでもない。人間としたらいい人ですよという感じ。そして、そういうことで、まあちょっと待って。（「議長、それ、通告書に書いとる」と呼ぶ者あり）それで心配されとるやろうと。小川知事になったら反対されるんやないですか。短く言えばですね。そういうことなんですよ。ちょっと長くなりましたけど。（発言する者あり）

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

やはりあの以前ですね、岩国市で米軍基地の問題で防衛施設局の補助金が切られたとか、そういったことがあったりしたもんですからね。まあ、あの微妙な問題ではありますが、ちょっとさわりに聞かせていただきました。まあ、結果はどうであれですね、芦屋町はこれをもうやっていくということでもありますから、年度内にですね、やって、新年度ですね、やっていただきたいと思っています。

では、要旨 2 の町民が一番危惧する問題点は、先ほども出ておりましたが、飛砂であります。ボートパークへ係留する利用者も船の管理や整備上、心配せざるを得ないと考えますが、所感をお尋ねします。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化推進委員会及びそのプレジャーボート係留施設専門分科会におきまして、検討を行っておりますが、この中でも現在の堆積している砂及び飛砂、この影響については大変危惧する意見が出ております。これについては、福岡県のほうからボートパークの整備の際には、基本設計の際に調査、対策を講じるということと言われておまして、我々としましては、福岡県におきまして技術的な対策については、さまざまな検討が行われるというふうと考えております。ただし、飛砂対策につきましては、町全体のこととして取り組まないといけないものでございますので、堆砂につきましても、早急に対応いただくよう福岡県には今後も強く要望していきたいというふうと考えております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

県は調査、対策をしっかりとやるということですが、これを信じていかなければいけないと思います。

それで要旨 3 に行きます。バス路線、バス停の整備は不可欠であります。路線の延長やバス停の新設が上げられておりますが、詳細をお尋ねします。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化につきましては、観光施策の一つという考え方がありますので、一体的な観光レ

平成 31 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

ジャーエリアとして集客を高めていくためには、車を持たない方々のためにも公共交通によるアクセス、この強化が必要だという検討結果になっております。今後、施設整備など事業を推進していく段階での検討事項と考えておりますので、現時点では所管課、関係機関等との検討、協議は行っておりませんが、今後の事業推進の過程においては、検討を行っていくようになるかというふうに考えております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

資料 10 を見ていただきたいと思います。去年ですね。私、ちょっと芦屋町について論文を書かせていただいたんですが。その中で人口減少社会に対応した生活環境の変革として、芦屋町においてバス問題優先的に実施していかなければならないと私も思っております。芦屋におけるバス交通の利便性向上として、まあ耳に入っていると思いますが、バス問題に不満を持つ町民の方、非常に多いですね。これはですね、改善していかなければならないと思います。民間目線で考えるならですね、運営をタクシー会社とかですね、任せるのも一つの選択肢ではないかと思うんですよ。隣町なんかは、自動車学校が運営してたりとかしておりますが。まあ、あの現在のね、交通局の体制で柔軟に対応できるなら問題はないと思います。

それで私はですね、まあ次にですね、住民の声を集約した 3 つのルートを提案したいと思いますが、参考にしていただければと思います。1 つは、遠賀川駅から新しい町立病院の間ですね、ピストンバス運行ということで、20 分間隔で町内 5 カ所程度、停留所、例えば新病院前、山鹿交差点、役場前、自衛隊前、栗屋交差点等ですね、自転車置き場を設置して、ハブ方式で最寄りのバスまで来てもらうという、自力で来てもらうという方法ですね。まあこの自転車置き場に無料のね、シェアの自転車があってもおもしろいと思います。

2 つ目、遠賀川駅から水巻駅。そして新水巻病院。そして芦屋町の中の循環バスですね。これも 20 分とか 30 分間隔で回していくと。これは車を持たない交通弱者、ここでも話したことあると思いますけど、新水巻病院に行くにはですね、大変、車がない方、苦勞していますね。バスで遠賀川駅やら、折尾駅まで行って、水巻に戻ったりとか、それで歩いていくとかいうようなことですが。本当、車なら芦屋町から 10 分程度の距離なんですよ。

そして最後に 3 つ目は、芦屋の海浜公園から折尾駅。急行バス 30 分間隔で回せたらいいなと思っておるんですが。今ですね、折尾駅の再開発、総額 840 億円ですか。総事業費がですね。これに市民は大きな期待を寄せております。さらなる折尾駅の利便性の向上が約束されております。やっぱり特急、急行、臨時列車などね、停車する折尾駅ですから、ここに芦屋からバスをダ

平成 31 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

イレクトにつながると。これもですね、ハブ方式で停留所も数箇所に集約すれば、片道 25 分、いや 20 分での運行ができるのではないかなど。特にこちらの場合はですね、土日強化した運行が望ましいと考えます。まあこれは、折尾駅の再開発、そして芦屋町の港湾の開発になってですね、観光地化とするにはですね、直接折尾駅からバスが来たらいんじゃないかと。これはいかがですか。町長の感想をお聞かせください。

○議長 小田 武人君

町長。

○町長 波多野茂丸君

まあ、あのですね、この交通バス問題については、議員も当然御承知の上でお話されていると思うんですが。勝手に乗り入れできないんですよ。このことはもう十分承知。それをあえて、きょう御提案いただくということ。まあこういう問題も含めて、いろんな協議をしなくちゃいけない。まさに芦屋はこれをやらないと人が来ない。全てにおいてですね。だから北九州市交通局、連携中枢都市の協定を結んでいますので、そういう絡みでですね、北九州市といろいろ協議してやらないと相手のあることです。これ、勝手にいきますよというわけにはいかないということは、議員も御承知の上でされておると。まあそれは芦屋町にとっての、まあ子供たちにとりましてもそうでしょうし。通学通勤の問題でもそうなんです。まあこれは非常に重い課題ではあるかと思っております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

はい、重い課題であります。必ず、これは鬼門ではないかと思うんですよ。これをやっぴかなければ、芦屋町観光地化、そして定住促進は図られないのではないかと私は思っております。要旨の 4、近郊に競合する施設がありますが、そのすみ分けをお尋ねいたします。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化推進委員会におけます直売機能・飲食機能の各専門分科会の検討におきまして、飲食機能・直売機能につきましても、周辺に類似施設が複数ございます。このため、各店舗にヒアリング調査などを行い、それぞれの店舗の特徴や強みなどを把握した上で、競合ではなく、それぞれと連携を図り、来訪された方々が回遊し、相乗効果が発揮させられる方向で検討を行ってまいりました。その結果、飲食機能・直売機能につきましても、フードコート形式というような計画

平成 31 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

が現在なされているところでございます。

また、ボートパークにつきましても周辺に類似施設が立地しております。それぞれ実態調査を行いましたところ、同様の施設におきましては満杯状態が続いているという状況が続いているため、必要性が高いという検討結果になっております。また、利用料金につきましても同程度とするような計画というふうにさせていただいております。ただし、いずれも具体的には、今後、基本設計の段階で詳細な検討を行うこととなっておりますので、その点、御理解いただければと思っております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

フードコート形式で飲食店を展開するということですか。近隣の飲食店なんかはね、やはりやっぱり淘汰されていくと思いますね。我慢比べもチキンレースも続くのではないかなと思ったりしてもいますが。脇田の汐入の里、そして脇之浦の海と大地の施設についてもまた同様に考えるんですが、これについては、課長、どうでしょうか。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

汐入の里につきましては、ひびき海の公園という施設の中に、物販施設と飲食店、結婚式場等が整備されている施設かと思えます。またそこには隣接してプレジャーボートの係留施設、公園等も整備されておりますし、脇田海水浴場、海釣棧橋、また響灘緑地グリーンパークも立地しております、今回の計画と非常に類似したような施設になっておるかと思えます。

検討に当たりましては、プレジャーボート係留施設、直売所について聞き取り調査を行っております。係留施設に関しましては、北九州市が整備し、周辺漁協が業務委託により運営をされております。108 隻の係留施設が常時満杯状態というふうになっております。汐入の里につきましては、ここは北九州市が造成をして、施設は民間が整備しているということでございまして、この直売施設に関しましてはグリーンパークの影響もありまして、土日を中心に年間約 13 万人ぐらいの来場があるということを聞いておりますが、商圈設定が異なっているというのが一つあります。ただし、民間がやられているというところで、詳細につきましては企業情報となるためここでは控えさせていただきたいと思っております。

あわせまして、海と大地につきましても、同じように聞き取りをさせていただいておりますが、こちらは完全に民間施設となりまして、詳細は企業情報のため不明というような状況になってお

ります。ただし、営業努力によりまして、脇田の施設よりも集客があるということをお聞きしております。またターゲットにつきましては、地元を設定されておりますが、遠くであれば宗像市ぐらいまでの範囲から集客があるということでございます。この中で御意見としていただいているのが、芦屋町におきましては観光要素が強い。立地状況が異なるようなことになるため、競合とは考えにくいというような御意見をいただいております。このようなことを総合的に判断しまして、現在の素案におきましては、競合ではなくて、それぞれの施設と連携を図っていくというような考え方をまとめているところでございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

詳しくありがとうございます。

脇田の汐入の里なんかは、よく私、行くんですよね。まあ車をとめて、タープ立てて、コーヒーを沸かしたりというようなことをしておりますが、どことなくやっぱり何か今度の構想と似ているような感じがするんですよね。まあ新しくできたところは、やはり目新しいものだから、人はいつときは行きますよね。で、まあおそらく古く、先に先行でね、汐入の里なんかはやられているから、またリニューアルするような形で、そういうことはどこでも繰り返し行われていますが。やってはならないというのは、やっぱり安売りじゃないですかね。いろいろな面において。そしてこれがデフレスパイラルを起こしているということで、芦屋町でもはまゆうスーパーとしんえいの事例がありますよね。まあ本当、これはやはり、必然的に起こるものであります。どちらかが体力的に無理だということで撤退していく、またいろいろな意味で撤退していくことはあり得るわけですから。やっぱりですね、差別化してセグメントターゲット、ポジショニングですか。マーケティングをしっかりとですね、すみ分けをはっきりさせたほうがよいと私は思います。

それでですね、参考資料の 7、8、9 を見ていただきたいと思います。芦屋町をブランディングするというので、私がこれまで考察してきた中で、芦屋町をいや応にして、基地と競艇に依存しすぎてきたと思います。まあ、あのこの厳しい時代、地方消滅、地方創生の時代の中で小さな町が生き残っていくにはですね、従来の基地と競艇という強みを生かしながら、外部からの移住者や入込客を受け入れる機会の創出を図らなければならないと考えます。また今住んでいる人々の地域への愛着を高め、シビックプライドを確立することが必須だと思います。そのためには、ほかの地域にない芦屋町らしさ、芦屋ならではのストーリーが求められていますが、その条件を満たすには私、これまでの考察を踏まえると、芦屋釜と海と考えます。

資料 9 の海についてですね、1 年前に論文で 2 つの施設を提案しておりますので、説明させていただきます。リーディングプロジェクトとして、子供も大人も学び、遊ぶ癒しの海への集約化と、県と町が進めている芦屋港レジャー港化と周辺について、2 つ提案したいと思います。

海の見える図書館。芦屋町の図書館、ちょっといろんな感想があると思いますが、近郊の図書館に比べるとちょっと物足りないなという気がしてならないですね。まあ、あの例えばですね、TSUTAYA とか運営する佐賀県の武雄の図書館なんかですね、本屋と図書館を兼ねた施設がありますが、そういうものですね、あの場所にあればですね、平日、土日も人が来るのではないかと。その中に夜 10 時まで開設してですね、保育園の移設も考えたり、子育て支援センターがあったりとか、コワーキングスペースですね。カルチャースクールとして活用したりとか、サテライトオフィスなどここに来てもいいじゃないですか。マルシェを開催するとか。そういうこともよろしいんじゃないかと思います。

そして 2 つ目はですね、これはよく最近口々にね、砂像の委員会の方々も出ているんじゃないですかね。全天候型の砂像展示場、屋内砂場施設ですね、これはもう、僕も鳥取砂丘のあそこの美術館を見てきましたので、視察のときだったですね、あれは。砂像展以外にも浜運動会、子供相撲なんかもですね、そういったことにも利用できるんじゃないかと思っております。

私、皆さんにお願いしたいんですが、やっぱりですね、観光地として通過させるだけでなく、半日でも芦屋町に滞在してもらおう。また住んでいる人たちがですね、私たちが心地よい、居心地に満足する空間づくりを目指していただきたいと思います。

では、要旨 5 のまちづくり会社の設立についてお尋ねします。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

まちづくり会社につきましては、民間企業として自主的な経営戦略を立てて、まちの価値を高めるための自主事業を行い、民間投資が継続的に行われるような環境を維持する役割を担っています。いわゆる従来からあります第三セクターというものと比較しますと、第三セクターにつきましては、特定の区域や内容での事業を行っているものに対しまして、このまちづくり会社というのは、さまざまな事業に取り組むことができ、民間企業としての特色が強くなっています。行政からの委託事業に限らず、幅広い自主的な事業によって独自の財源を確保し、雇用の拡大、新規事業に取り組むことができる点、こういったものが特徴だというふうに言えます。今回の芦屋港活性化基本計画の素案におきましては、管理運営組織として、このまちづくり会社の仕組みが望ましいとなっておりますが、新たに整備する施設の管理運営組織につきましては、今後の検討課題というふうにしております。管理運営につきましては、周辺地域も含めた効率的かつ効果的

平成 31 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

な運営方法が求められますし、運営組織としてどのような形態がよいのかも含めて、今後十分な検討が必要であるというふうになっております。よって現状では、まちづくり会社の必要性も含めて、今後の検討課題というふうな形にまとめているところでございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

これについては、どうなのでしょうね。観光協会が法人化して、そのままこういったものを管理していくのかなあと思うのですが、いかがですか。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化推進委員会の検討におきましては、隣接する海浜公園、それからレジャープールアクアシアン、こういったものも含めて、さまざまな機能がございますので、一体的な観光レジャーの拠点として生かして、それぞれが連携し、相乗効果を発揮する必要があることから、検討過程におきまして、施設ごとに管理者が異なるのではなくて、一体的な管理が望ましいとまとめたところでございます。また、芦屋町の観光レジャー拠点として効果を発揮するためには、全体をマネジメントしていく必要がございますので、一体的な管理の中でマネジメントを行うほうが効率的であろうということの結果になりました。

管理運営者の件に関しましては、芦屋町観光協会が担うことにつきまして、観光協会より「全ての施設を担うことには厳しい面がある」という旨の御意見もいただいておりますので、こういったことも含めまして、管理運営方法、管理運営組織につきましては、今後の検討課題として観光協会も含め、町内関係団体等とも協議を行いながら、今後検討していくものでございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

そのまちづくり会社ですか。これはどこかその、ここに載せる、上げるに当たって、参考にしたようなところとかあるんですか。お尋ねします。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化基本計画素案の資料編のほうにも若干記載をさせていただいておりますが、まちづくり会社につきましては、全国さまざまな組織形態、形がございます。この中でも特に、今回参考にしましたのは、宗像市の道の駅むなかたを運営しております運営会社、もう 1 つは山口県萩市でございます、道の駅萩しーまーとの運営会社、この 2 つ事例を取り上げております。

道の駅むなかたの場合ですが、こちらは商工会、農協、観光協会、漁協、宗像市の 5 者がそれぞれ 20% の出資比率で出資を行っております、出資金は合計で 500 万となっております。こちらの道の駅、皆さん御存じかとは思いますが、非常に大規模でありますので、特に運営方法、それから運営主体の役割、こういったものが今回の計画には参考になるかというふうな形で考えております。

続いて、道の駅萩しーまーとの場合でございますが、こちらは漁協が隣接しているということの立地もありまして、漁協を中心に地元の海産物メーカーなど 14 事業者によりまして 2,500 万円の出資で設立されております。ただし、行政からの出資は行われておりません。こちらの施設につきましては、特に観光地から離れた場所に立地しているということがございますが、地元住民をメインターゲットにし、地元の方に愛される道の駅として運営をしていかれた結果、次第に観光客が訪れるようになったという経緯がございます。独自の商品開発、情報発信、人材育成などを展開されておまして、今では非常に集客力の高い魅力的な施設運営が行われておりますので、施設整備、運営面等々におきまして非常に参考になるというふうに考えております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

どちらも私、何度も行ったことがありますし、宗像なんかしょっちゅう行っているところで。まさかその出資金が 500 万、わずか 500 万でできて運営されているとは思ってもおりませんでした。大変参考になりました。

要旨 6 のですね、民間誘致やテナント募集のための環境整備についてお尋ねします。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

民間誘致やテナント誘致募集のための環境整備につきましてですが、芦屋港活性化基本計画の素案におきましては、施設整備に関しまして、行政による投資は最小限に抑え、可能な限り民間活力を活用するというような考え方にしております。現状では港湾の施設内ですね、現状の港湾の中には人がにぎわうような環境がないというようなことがありますので、民間事業者の出店

平成 31 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

ニーズというのは非常に低い状況でございます。このため、まず民間事業者の方々が出店ニーズを高めていただけるために、年間を通じた集客力向上につながるようなにぎわいの創出、魅力の創出を行っていく必要があるというふうにまとめております。このため、現在未利用地となっていますエリア、また背後地の緑地帯ですね、それから釣り場、里浜のエリア内に今後設けられる計画である多目的広場、こういったものを活用して、まずはにぎわいをつくっていく、人が集まっていくことをつくっていくことが必要である。また芦屋町の観光施策と一体となった取り組みを推進していく必要があるということでもまとめております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

それで、テナント募集、民間誘致ということは、それを取りまとめるのは、指定管理を受けた会社がということでしょうか。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

具体的には今後の検討になりますが、先に運営組織であったり、これを中心に進めていく団体組織等を設けていきながら、併行して作業していくようになるかと思えます。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

指定管理という町内ではですね、アクアシアンプールとか海浜公園なんかは、問題はないと思いますが、マリントラスなんかはですね、これ、どうなんだろうと思うんですよね。5年の期限が経つたびに業者がかわって、また納入される家賃もどんどん減っていく中でですね、まあ、あれはちょっと私は失敗じゃないかと思うんです。なぜならですね、やっぱり建物をつくって、「さあ、いらっしゃい」というよりは、させるならですね、最初から建物から全て民間にやらせてですね、というような方法がまあ、あるわけですよ。

ここで資料 11 を見ていただきたいと思います。これはですね、国の補助金に頼らない地方創生モデルとして注目されております。岩手県紫波町の公民連携によるオガールプロジェクトと言います。これ、おととしの総務財政の委員会で盛岡の市役所を訪ねた後、視察の後ですね、みんなでちょっと行ってこようということで、見学しました。紫波町は人口 3 万 3, 7 0 0 人。まあ、

平成31年第1回定例会（田島憲道議員一般質問）

3万3,000人ぐらいですね、農業を基幹産業とする町なんですね。盛岡市と花巻市の間に位置しているベッドタウンなんですが、何と食料受給率は、170%といます。この紫波中央駅前開発計画の面積は21.2ヘクタールで、この開発に現在、図書館、子育て支援センター、産直マルシェ、カフェ、居酒屋、病院、学習塾などで構成される官民の複合施設のオガールプラザとそしてホテル。全国初ですね、バレーボール専用の体育館ですね。これ、国際試合なんかも招聘できるオガールベース。そして町役場、さらに約60戸が建設されている住宅地のオガールタウンが位置しております。そしてオガールプロジェクトは2009年に策定された紫波町公民連携基本計画に基づき、公有地活用型、いわゆるパブリックプライベートパートナーシップ、PPPですね。この手法を採用しました。公民連携の場合、公共は補助金などを活用し、住民福祉向上のために施設をつくり、民間はその施設を運用して、利益を上げることになりますが、経営的な視線を十分取り入れた計画でないために民間の投資が続かず、結果的に使われない施設など多くなって、大きな赤字を抱える自治体も少なくないのが実情なのです。このオガールプロジェクトの特徴は、補助金などの公的資金に頼ることなく、民間金融機関の厳しいチェックが継続的に入る体制づくりを構築しました。また施設の竣工も入居率が100%に埋まらないと実施しないなど、徹底したリスク管理の考え方をもち、事業を展開しています。この運営方針は金融機関との信頼関係をさらに強めることとなり、その結果、多額の融資も可能にしております。このオガールプロジェクトは平成25年に土地活用モデル大賞を受賞し、一躍注目されてですね、全国から視察団が訪れるようになっております。この成功のポイントは2つありまして、行政内に公民連携室を各課横断で設置した。そしてPPPを推進するエージェントをつくりました。行政は民間が事業展開をしやすいように条例等の制定で環境を整備し、後押しをしております。民間は資金調達や事業計画を策定し、地域の不動産価値の向上を念頭に事業推進を図ります。住民税や固定資産税を行政や市民、民に還元する。このような経済の流れを官民連携を実施することによりつくり出していくことで、本当の意味での地域活性化が図られているという考えであります。これ、私の論文を抜粋いたしました。

要旨7の町民の機運醸成と担い手の育成についてお尋ねします。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

芦屋港活性化基本計画の素案におきましては、さまざまな施設が計画されていますが、広大な敷地の中で滞在時間を確保し、回遊性を高めるためには、イベント広場や既存の緑地帯を生かし、にぎわいをつくっていくことが重要だとされております。またそれぞれの施設におきましても、持続可能な観光拠点となるためには、魅力の創出、情報の発信、飽きられない事業展開、記憶に

残るコンテンツづくり、人と人とのつながりをつくることなどが求められます。このために、まず情報発信が重要になります。施設整備の前から、芦屋港の魅力を SNS やインターネットを使って情報発信していくことは欠かせないものでございます。地域に魅力がたくさんあるけども、地元の人には知らないというようなことがよくありますが、芦屋町にも同じようなことが言えますので、今回の芦屋港活性化を契機に、住民の方々が魅力の発見や情報発信を行うチームをつくり、チームで情報発信を行うことで、それぞれの方々がスター化することにより、機運も高まっていくというような考え方でございます。

もう 1 点につきましては、体験プログラム、イベントの担い手となる人たち、こういった方々を育成しようというものでございます。例えば初心者向けの釣り教室であったり、釣った魚をさばく体験、砂浜を活用したアクティビティなど、芦屋港ならではの体験プログラムが実施できますが、それらを担う人を育成し、確保していくことが課題でありますので、機運醸成とともに、芦屋港の各施設を活用したコンテンツづくりを担う人材育成が必要ということでございます。また、芦屋港に関心を高めてもらい、にぎわいをつくっていくためには、とりかかりやすいイベント開催なども想定されています。具体的には今後の検討課題になりますが、このような取り組みを中心的に担っていく人材の発掘、育成が必要だということでもまとめているところでございます。

最後に、芦屋港活性化推進委員会の検討の中で出ていましたのが、施設整備に当たりましては、基本設計の際に詳細な検討を行う計画となっておりますが、この際に、町内のさまざまな立場の方々が検討にかかわってもらい、町民の方々が楽しくなるような施設づくりにかかわることで、おのずと機運が高まっていくというような考え方で、このような取り組みも必要だということでもまとめております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

実に情報発信は、本当に大切だと思います。いいものをつくれればですね、いいものがあれば、もう、今はもう情報社会なんで、なだれ落ちたように広がって拡散していくと思うんですね。またですね、まあ地元漁師の方たちですよ。やはり、海ですから魚を求めて芦屋にやってくる。いい魚が食べたいねと、新鮮な魚が食べたいねというときにですね、どのように漁師たちを盛り上げていくかですね。漁師がそっぽを向いたら話にならない事業だと思うんですよ。それであの、まあ 5 月から 11 月に底引き網、ゴチ網がありますね。このですね、このシーズンはですね、2 時、3 時に船が着くと、それをそのままボーンとですね、右から左にマルシェに持って行

平成 31 年第 1 回定例会（田島憲道議員一般質問）

ってですね、夕方市か何かを開くとかですね、そういったビジネスチャンスが出てくると思うんですよ。そういったような、今、この段階でアプローチ、なんか漁師の人たち、話とかあるんですか。やっておるんですか。お尋ねします。

○議長 小田 武人君

芦屋港活性化推進室長。

○芦屋港活性化推進室長 水摩 秀徳君

検討の段階におきまして、隣接する遠賀漁業協同組合の芦屋支所の方々とは意見交換は何度も行ってきております。現在の素案の中では、漁師の皆さんが支障にならないように配慮したものが中心となっておりますが、水揚高が減少したり、漁師さんの高齢化が進行するなど、現在漁協が抱える問題というのたくさんございますので、機運醸成の過程におきましては、漁協の皆さんともさまざまな意見交換を行いながら、双方にメリットがあるようにですね、機運を高めていこうということでございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

そうですね。夕方揚がる魚が、実はトロ箱に氷詰めして、冷凍庫の中で冷やされて、朝のね、2時、3時に出荷されていくのを見ていると、そのまま販売したらいいんじゃないかとかよく思うんですけど、なかなかこれまでですね、そういった場所やら、そういうことをね、リーダーシップとしてやる人たちもいなかったのかなと思っております。せっかくですね、これはもうチャンスではないかと思うんで、またゴチ網なんかはですね、一人じゃ出せない船なので、ここにまた人材育成のためにですね、ちょっと補助金が出たりだとかですね、船に対する何らかの手立ても、助成も必要じゃないかと思えます。町長、時間がありますし、何かありますか。（発言する者あり）いやいや、いやいや。それとまた、20代、30代の方たちですね、アダルトな世代がどうしても海に行くとなると、福津。ちょっと羽を伸ばして、あれですよ、糸島。福津はまあ、道の駅むなかたがありますし、こじやれたカフェがたくさん、福津海岸できました。糸島もそうですね。昔は芥屋とか前原とか言っていたのが、今、糸島というブランド化されて、もう東京もね、全国糸島の名前がもう、知らない人がいないくらいに定住・移住の人が求めてね、糸島にやって来るといような。芸能人も何人も移住しているような話もありますね。ああいうようなものですね、その今度の港湾の開発ですね、そこにできればいいんじゃないかなと私は思うんですよ。やっぱり私も嬉しいしですね。仕事に行く前にカフェでも寄って行こうとか、本でも読もうとか。地元でそういうものがあったら、本当、遠くまで行かないでいいと思うん

ですが、町長いかがですか。感想を。

○議長 小田 武人君

町長。

○町長 波多野茂丸君

るる、田島議員、芦屋港湾のレジャー港化について熱い思いを語っていただきました。まさに今、パブリックコメントやっている最中ですね、おそらく担当も余りはっきり言えないんですよ。皆さんに、今、住民の皆さんにどう思いますか。声を聞いている状態の中で、それをこうなんですよ、こうなんですよとは言えない。だから今、まだこれは走り出す前ですので、今、田島議員が言われたようなこともいろいろ出てくるのではないかと考えております。それからこれはもう、あそこの港湾だけの問題ではなく、全体的に砂浜からわんぱくから、それからスライダープールから港湾から釣り場から、で山鹿に渡って柏原地区、夏井ヶ浜まで、一体を補完した、結局、私は計画だと思っておりますので、後は人材だと思います。それから今、御心配の一次産業の方、農家の方、漁業の方、やる気を出していただきたい。この漁師の方、それから農業の方、今、一生懸命やっただいております。この方たちが一生懸命する。人は来るんですね。今言ったように、魚、から野菜や市を出せば、朝市とかですね、道の駅で。宗像でもまさにそれ。魚でもっとるみたいなもんですね。だからそういうような形の中で、にぎわいをまずどこかをつくると、必ずそこに商売人は集まりますよね。商売人に先に来いって言ってもなかなか。だからこういうように、にぎわいが、まずどこかでにぎわいをつくって、あ、商売しようという気にさせないとですね。だから田島議員も御存じのように芦屋はもういろんなバラエティに富んだ、私は宝の山だと思っておりますので、ぜひ今後とも適切な御意見をいただきたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

とにかくですね、やっぱりね、この海岸線は砂なんですよね。砂。この問題は砂なんです、これを堂々巡りしていくと、砂かけ論になりますので、まあ、きょうはこの辺で私の一般質問を終わらせていただきたいと思ひます。ありがとうございました。

○議長 小田 武人君

以上で田島議員の一般質問は終わりました。